

(6) 児童生徒による授業評価を生かした授業改善

確かな学力を育むためには、児童生徒による授業評価を通して、教師の授業力を向上させ、日々の授業改善を図ることが大切です。

授業評価の意義

- 教師は、授業評価を通して、児童生徒の授業に対する意識や習熟の状況を把握し、授業改善の方向性を明らかにするなど、自らの授業力の向上に取り組むことができる。
- 学校は、授業評価を通して、学校が組織的・計画的に取り組んだ授業改善の課題や成果を、児童生徒や保護者、学校評議員へ説明するなど、信頼される学校づくりを推進することができる。
- 児童生徒は、授業評価を通して、授業への取組を振り返り、教師と共によりよい授業をつくろうとするなど、授業に主体的に取り組むことができる。

授業評価の充実に向けた3つのステップ

★ステップ1 評価項目の設定

- 授業評価の評価項目は、「授業改善に向けて設定する評価項目」と「基本的な指導技術の向上に向けて設定する評価項目」があります。

授業改善に向けて設定する評価項目の例

- 授業の内容はよく理解できますか。
- 自分で考えたり、調べたりする場合は、ありますか。
- 考えを発表したり、話し合ったりする場はありますか。
- 分からないことやできないことを繰り返し取り組む場がありますか。
- 分からないことやもっと知りたいことを質問しやすいですか。

基本的な指導技術の向上に向けて設定する評価項目の例

- 先生の学習内容の説明は、分かりやすいですか。
- 黒板は、分かりやすくまとめられていますか。
- 教材・教具は興味や関心がわくように工夫されていますか。
- 先生は、努力を認めたり、励ましたりしてくれますか。
- 授業の進み方はちょうどよいですか。

★ステップ2 評価の実施、集計・分析

- 授業評価の取組を学校評価のPDCAサイクルに位置付けて、継続的に取り組むとともに、児童生徒から得られた評価結果を効果的に授業改善に結び付けていきます。

実施、集計・分析のポイント

- 組織的な取組
 - ・学校全体で共通理解を図り、授業評価を教師間コミュニケーション・ツールとして活用します。
- 学校評価と関連を図った継続的な取組
 - ・授業評価と学校評価を関連付け、年度の中で複数回実施します。
- 効果的なデータの集計・分析
 - ・児童生徒による授業評価と教師の自己評価の結果を比較するなど、授業改善に向けて様々な視点で分析します。

★ステップ3 評価結果の活用

- 授業評価の結果を活用し、学校がよりよい授業づくりに継続的に取り組んでいることを情報発信し、説明責任を果たすことが大切です。

評価結果の活用のポイント

- 学校改善プランとの関連を図った授業改善
 - ・学力調査等の結果と関連を図り、学力向上に向けた具体的な方策を検証します。
- 校内研究との関連を図った授業改善
 - ・授業公開を行い、授業公開で見られた姿と、授業評価の結果を比較・分析します。
- 授業改善の積極的な情報発信
 - ・授業評価の結果を踏まえた授業改善の成果と課題を公表し、説明責任を果たします。

7 ICTを活用した学習指導

(1) 学習場面に応じたICT活用の分類例

授業において1人1台端末等のICTを活用することは、児童生徒の学びの質を高めるとともに、今日的に求められる情報活用能力の育成につながります。

文部科学省の「学びのイノベーション事業」実践報告書では、学習場面に応じたICT活用の分類例を次のとおり示しています。

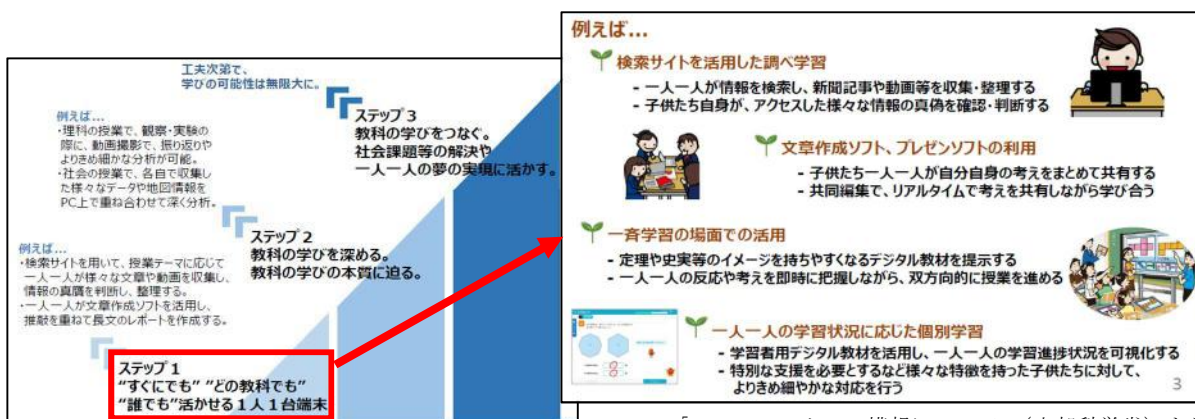
A 一斉学習	B 個別学習		C 協働学習	
A1 教員による教材の提示  画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用	B1 個に応じる学習  一人一人の習熟の程度等に応じた学習	B2 調査活動  インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録	C1 発表や話し合い  グループや学級全体での発表・話し合い	C2 協働での意見整理  複数の意見・考えを議論して整理
B3 思考を深める学習  シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習	B4 表現・制作  マルチメディアを用いた資料、作品の制作	B5 家庭学習  情報端末の持ち帰りによる家庭学習	C3 協働制作  グループでの分担、協働による作品の制作	C4 学校の壁を越えた学習  遠隔地や海外の学校等との交流授業

「学びのイノベーション事業」実践研究報告書（文部科学省）

学習指導に当たっては、「一斉指導による学び（一斉学習）」「児童生徒一人一人の能力や特性に応じた学び（個別学習）」「児童生徒同士が教え合い学び合う協働的な学び（協働学習）」のそれぞれにおいて、ICTを積極的に活用することが大切です。

(2) 「1人1台端末・高速通信環境」を生かした学びの変容

GIGAスクール構想の下で整備されたICT環境の活用にあたっては、1人1台端末と高速通信環境を生かした学びの変容を段階的に捉えることも大切です。



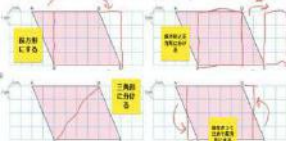


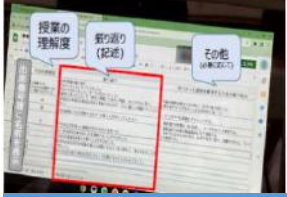
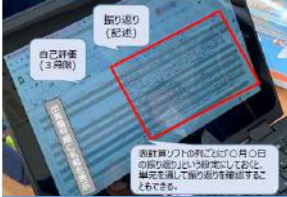
「GIGAスクール構想について」（文部科学省）より

これらの段階のうち、まずはステップ1に示されている“すぐにでも” “どの教科でも” “誰でも”活かせる1人1台端末の活用に積極的に取り組み、1人1台端末やクラウドサービスの基本的な機能や操作方法について理解を深めるとともに、児童生徒がICTを活用する有用性を実感することが大切です。

(3) “すぐにでも” “どの教科でも” “誰でも” 生かせる 1人1台端末の活用

1人1台端末等のICTは特定の教科等のみでの活用にとどまらず、日常的に活用することが大切です。次に示す、“すぐにでも” “どの教科でも” “誰でも” 生かせる1人1台端末の活用例などを参考に、各教科等の指導にICT活用を適切に位置付けてください。

文部科学省 StuDX Style Webページに掲載されている事例

<h3>いろいろな意見を出し合って 互いの考えを深めたり広めたりしよう</h3>	<h3>振り返り活動で相互参照</h3>
<p>■校種・学年 小学校以上</p> <p>■活用の概要 学習の課題に沿っていろいろな考えを出し合い、共有する場面である。</p> <p>自分の考えを友達に伝える場面では、自分の考えを拡大したり、書き込んだりしながら説明する姿もあった。</p> <p>児童生徒が書き込んでいる様子を、デジタルホワイトボードで共有することで、なかなか自分の考えが進まない児童生徒も、友達の考えをヒントに集中して取り組むことができたようだ。</p> <p>友達の考えに互いに触れる中で、考えを深めたり広げたりすることにつなげたい。</p>	<p>■校種・学年 小学校以上</p> <p>■活用の概要 様々な教科等で実践されている「振り返り活動」を、表計算ソフトの共同編集機能を活用して行う。</p> <p>児童生徒それぞれが個人のセルに入力しながらクラスメイトの記述を見られるので、学習内容を確認したり、自分の記述と比較したりできる。そうすることで、学びがより定着したり、深く思考したりすることにつながる。</p> <p>また、教師は全員の記述を瞬時に把握できるメリットがあり、即座にフィードバックができるなど、指導や学習の改善に活かせる。</p> <p>汎用的な活用方法なので、共同編集機能やクラウド活用のイメージをつかみやすい事例である。</p>
 <p>デジタルホワイトボードに教科書の図を貼り付けたワークシートを一人一人に配付しておく。今回は、他の児童生徒のワークシートも見ることができるようにした。</p> <p>始めは線の手書き入力くらいだったが、慣れてくると付属に短い説明を入力することができるようになった。説明が追加されることで見た児童生徒も考えを理解しやすくなった。</p>  <p>自分が考えた解決方法のうち、一番伝えたいものを拡大して書き加えながら隣の児童生徒に説明している様子である。隣の児童生徒の表情や考えの変化にも注目したい。</p>  <p>教師用端末でデジタルホワイトボードをスクリーンに投影し、クラス全体に考えを説明している場面である。聞いている児童生徒は、自分の考えが深まったり広がったりした。</p>	 <p>これまででも振り返り活動は実践されてきたが、どんな記述があるかを児童生徒同士が知ろうと思うと、交流するまで分からない場合もあった。</p> <p>共同編集機能を活用することで、記述の途中でも共有できるので、児童生徒にとって学びの助けになる。</p>  <p>記述による振り返りだけでなく、自己評価をA・B・Cなどの3段階で選択できるように設定することも可能なので、タイピングの習得が十分でない段階でも取り組むことができる。</p>

文部科学省 StuDX Style Webページより
URL : <https://www.mext.go.jp/studxstyle/>



(4) 北海道教育委員会によるICT活用の充実に向けた取組

道教委では、Webページ上に「ICT活用ポータルサイト」を開設し、「ICT活用授業モデル」などの、ICTを活用した授業を実施する上で参考となる情報を掲載しています。

The screenshot shows the homepage of the 'ICT活用ポータルサイト' (ICT Utilization Portal Site) for Hokkaido. It features a navigation menu with categories like 'ICT活用授業モデル' (ICT Utilization Lesson Models), 'ICT活用プログラム' (ICT Utilization Programs), and 'ICT活用サポートデスク' (ICT Utilization Support Desk). The main content area displays various educational resources, including lesson models, programs, and support materials, with a focus on promoting ICT utilization in schools.

ICT活用ポータルサイトには、ICT活用授業モデルのほか、ICTを活用した授業の映像やICT活用に関するオンラインの研修プログラム、道内外の好事例など、学校でICTを活用する際に参考となる資料を幅広く掲載しているので、授業づくりや自己研修などで積極的に活用してください。

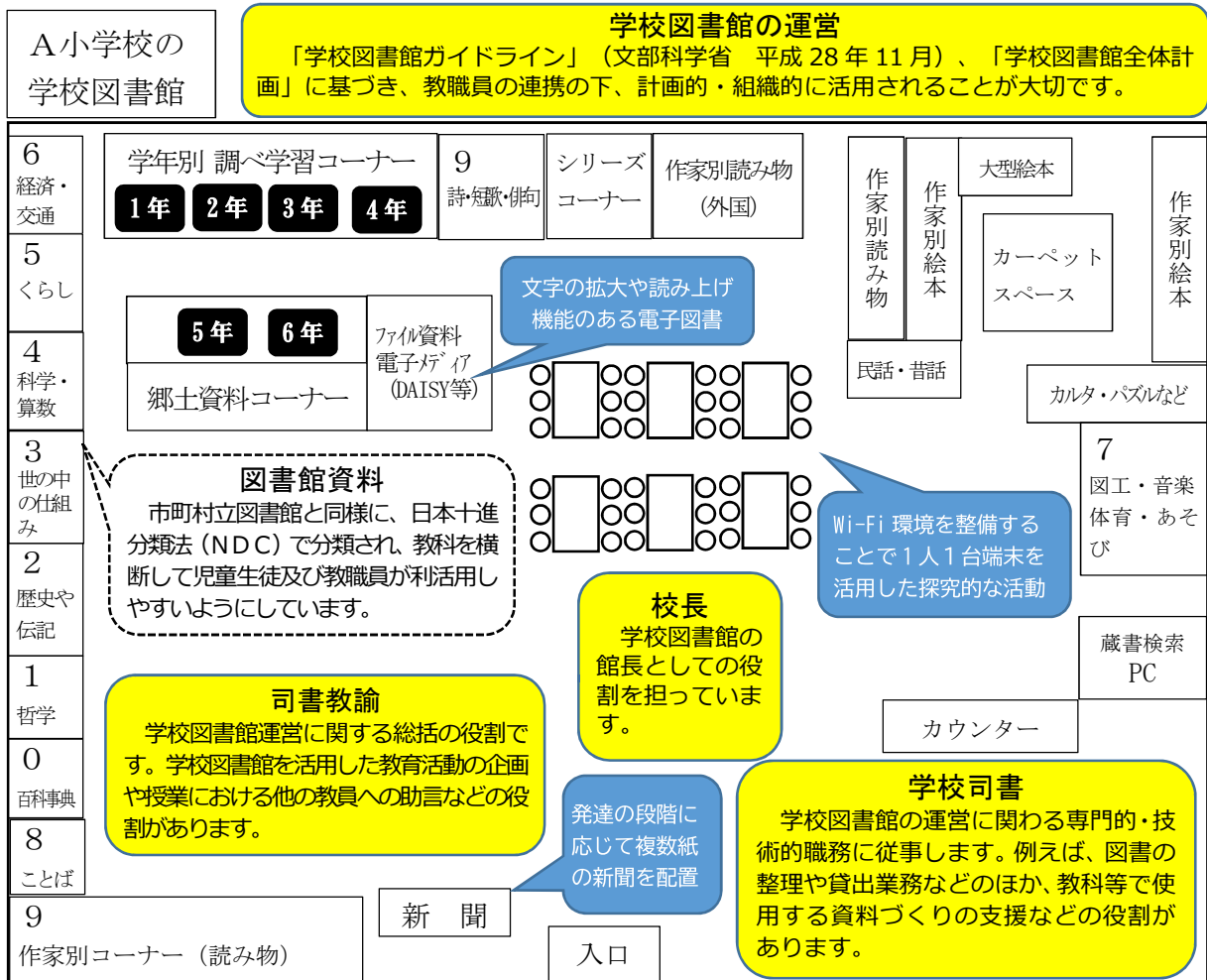
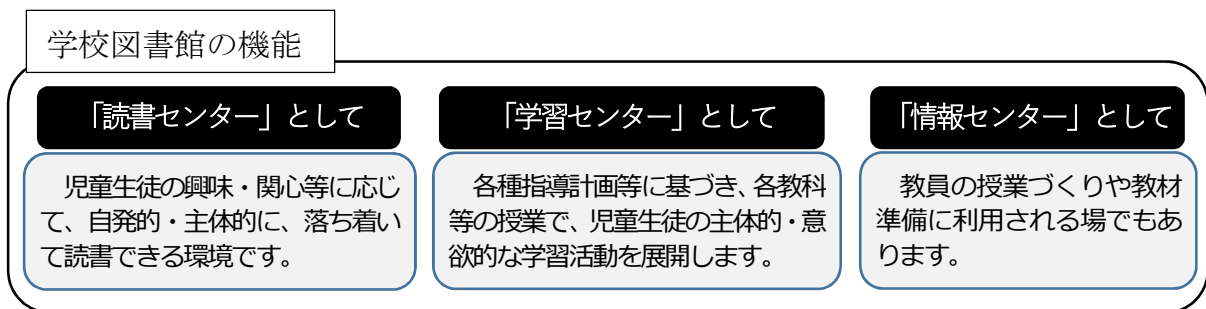
道教委 ICT活用ポータルサイト
URL : <https://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ict/ict-portalsite.html>



8 主体的・対話的で深い学びを効果的に進める基盤としての学校図書館

学校図書館には、児童生徒の読書活動や児童生徒への読書指導の場である「読書センター」、児童生徒の学習活動を支援したり、授業の内容を豊かにしてその理解を深めたりする「学習センター」、児童生徒の情報の収集・選択・活用能力を育成する「情報センター」としての機能を有しており、これらのことによって、学校の教育課程の展開に寄与し、児童生徒の健全な教養を育成する施設です。

これからの学校図書館には、主体的・対話的で深い学びを効果的に進める基盤としての役割が期待されています。例えば、児童生徒がグループ別の調べ学習等において、課題の発見・解決に向けて必要な資料・情報の活用を通じた学習活動を行うことができるよう、図書館資料等の充実や、学習しやすい机の配置などが求められています。



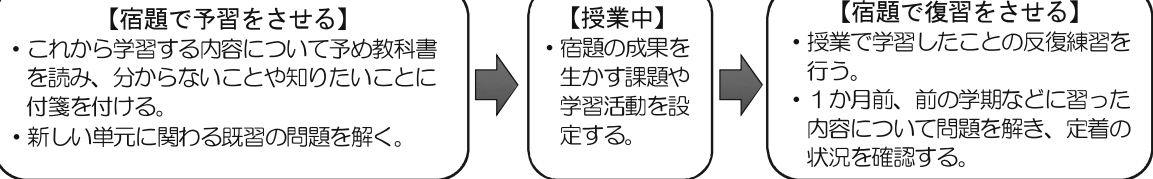
9 学習習慣

○ 宿題の出し方

宿題は、学習内容の定着や学習習慣の確立のために必要な取組です。授業と宿題とを関連付け、予習－授業－復習のサイクルを確立させるとともに、児童生徒に宿題に必ず取り組ませることや取組内容について適切に助言することが大切です。

具体の一例

- 予習－授業－復習のサイクルを確立し、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。



- 宿題の内容や分量などについて、学校全体で共通理解を図り、発達の段階を踏まえて系統的な指導を行う。

○ 児童生徒の習熟の程度に応じたり、児童生徒が選択したりできる内容にする。

○ 生活リズムを乱したり学習意欲を低下させたりしないような分量に配慮する。

- 児童生徒の宿題の取組状況や内容を適切に評価し、授業改善や学習意欲の向上、学習習慣の定着など、指導に生かす。

○ 宿題の取組状況について確認し、速やかに返却するとともに、授業に関連付ける。
○ 宿題の取組状況を適切に評価し、児童生徒の学習意欲を高める賞賛や助言に努める。

宿題を徹底するためのチェックリスト例

- その日の学習内容に関わる内容を宿題に出している。
- 予習となるような宿題を出している。
(例：教科書の当該ページを読み、分からないところに付箋を付けてくるなど)
- 習熟の程度に応じた宿題を出している。又は、児童生徒に選択させている。
- 必ず行う宿題に加え、家庭学習ノートや、自由に持ち帰ることができる漢字・計算プリントに取り組みさせている。
- 学習した内容を忘れたところに繰り返し宿題として出し、確認している。
- 提出された宿題は必ず〇付けし、次回以降の授業の改善や、放課後等の個別指導に生かしている。
- 宿題に保護者の確認欄を設け、家庭と連携を図っている。
- 宿題の分量や内容、目安の時間を、学校全体である程度統一している。
- 宿題の内容、添削の仕方等について校内研修で取り組んでいる。

宿題を定着させるための家庭との連携

児童生徒の発達の段階や実態等を踏まえ、保護者の関わり方や学習時間の目安など、次の内容について共通理解を図ります。

- 生活リズムを安定させ、毎日、確実に宿題を行うよう、1日の時間帯で、いつ、何をするのかを話し合う。
- 集中できるよう、宿題をしている間はテレビを消す。
- 児童生徒が何を学んでいるか理解できるよう、宿題の内容を確認する。
- やる気を高めるよう、宿題の取り組み方をほめたり、励ましたりする。など

○ 補習・個別指導の取組

児童生徒が、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得したり、主体的に学習を進めたりすることができるようにするために、授業中の個別指導を工夫改善することはもとより、机間指導等において、児童生徒の活動状況や理解の様子を適宜把握し、適切な支援を行うことが大切です。

また、授業以外においても、教育委員会等と連携を図るとともに、地域人材などを活用しながら学習の機会や時間を確保する取組を進める必要があります。